

【件名】

旧中野刑務所正門の曳家工事実施結果等について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

旧中野刑務所正門（区指定有形文化財：旧豊多摩監獄表門。以下「正門」という。）の移築・修復工事に係る曳家工事の実施結果と今後の予定について、以下のとおり報告する。

1 曳家工事について

(1) 曳家工事の概要

旧中野刑務所の正門について、令和7年7月28日（月）から8月5日（火）までの間、「曳家（ひきや）」という方法で移動を行った。

正門をジャッキアップし、仮受鋼材杭から移動装置（コロ棒の上に組まれたもの）へ移し、油圧ストロークジャッキで正門東側から押すことにより、西側へ約112メートルの移動を行った（写真1・写真2・写真3）。

曳家経路と曳家先は、正門や曳家のレール等の荷重に耐えられるよう、地耐力の弱い地表面から約2.5mの深さまで掘削し、耐圧盤（荷重を支えるための厚さ約30cmの鉄筋コンクリート製の床）を設置した（写真4）。

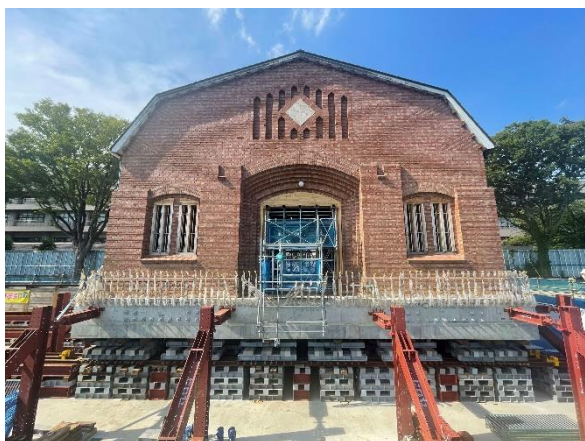


写真1 正門のジャッキアップ



写真2 移動装置



写真3 油圧ジャッキ



写真4 曳家経路と曳家先

2 曳家の一般見学会及び情報発信等について

煉瓦造建造物の曳家は、全国的にも珍しい事例であり、旧豊多摩監獄や旧中野刑務所の歴史や背景を含め、多くの人々に関心を持ってもらうきっかけとなるほか、今後の活用に向けた気運を高めていくため、7月29日(火)から31日(木)までの3日間で全10回の一般見学会を実施した。定員以上の申込があったため抽選を行い、268名の区民等の参加があった。

また、曳家の様子については、複数の報道機関による発信に加え、現在、区ホームページに曳家のタイムラプス動画等を公開している。

なお、見学会参加者を対象としたアンケート結果から、若年層へのアプローチや、区ホームページをはじめ、SNSによる情報発信強化の必要性が明らかとなったことから、今後は中野区公式チャンネルでの動画配信などを積極的に行っていくとともに、旧小菅刑務所庁舎や煉瓦造建造物など関係文化財と連携した情報発信の強化、活用時における連携・協力を検討していく。

3 工事現場の仮囲いの活用について

移築・修復工事を行っている矯正研修所跡地の周囲の仮囲いについて、門に関する情報発信や文化芸術発信の場としての活用を進めている。平和の森小学校と中野中学校の児童・生徒に絵を描いてもらうに当たり、「中野の歴史」という資料を配布し、文章や写真を通じて中野のイメージを膨らませた上で制作することを依頼している。

4 今後の予定

令和7年11月	仮囲いに正門に関する説明を貼付
令和7年11月末	移築工事の完了
12月	仮囲いに子どもの絵を貼付
令和7年度中	正門の活用に関する検討
令和8年度	正門の活用に関する検討、正門内部展示設計
令和9年度	正門の活用に関する検討、正門内部展示制作・施工
令和9年 2月	修復工事の完了
7月末	記録・保存業務の完了
令和10年5月	正門の公開開始